

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391500055		
法人名	株式会社 福伸		
事業所名	グループホーム もたい		
所在地	奥州市前沢区生母字中道3番地2		
自己評価作成日	平成27年12月15日	評価結果市町村受理日	平成28年5月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/03/i/index.php?act=on_kouhyou_detail_2015_022_ki_hon=true&Ji_gyosyoCd=0391500055-00&Pr_efCd=03&Ver_si_onCd=022
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成28年1月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○職員会議で話し合い決定した理念、「やさしいあいづち、こぼれる笑顔、感謝の言葉」の通り、利用者様の声、そして心の声を聴く事を重点にしています。

○サービスの質の向上を高める為に、研修会等、そして他のグループとの交換研修にも積極的に参加し、実践に繋げています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームもたいは、デイサービス、高齢者総合施設もたいの里が同一敷地内にあり、避難訓練はデイサービスと合同で実施しており、お互いに交流に努めており、メリットも大きい。法人の人事異動により、管理者が、昨年、グループホームに異動となり、職員間のコミュニケーションを大切にし、利用者との関係も再構築され、「どうい介護をしたらいか」全員で話し合い、理念を新しく作り上げた。「やさしいあいづち、こぼれる笑顔、感謝の言葉」という、この理念を利用者が書き、玄関、事務室に掲示している。職員研修にも力を入れており、外部研修はもとより、内部への伝達と情報の共有、交換研修を行い、質の向上に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	惰性にならず、サービスの在り方を見直す為に、職員間で意見を出し合い、実践に繋げた。理念を利用者様に書いて頂いた。	改めてサービスの在り方を見直すために、全職員で話し合い、「やさしいあいづち、こぼれる笑顔、感謝の言葉」を理念とし、利用者が手書きした理念を玄関・事務室に掲示している。ホールには職員が作成した理念も掲示している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育園、小学校の交流は継続している。定期的な保育園だけでは無く、地域にもう1ヶ所ある所に働きかける予定だったが、出来なかった。	昨年調査の際に、目標達成計画を立て取り組んできているが、継続的に取り組みをすることとしている。地域の夏祭りや、子供たちの相撲大会の見学にでかけている。広報便りは作成していないが来年度からは、家族とのコミュニケーションの場として発行したいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティア、地元小学校の方々には、グループホームの理解は得られていると思うが、まだ全体的に地域の内に浸透出来ていないと思う。 (駐在所、消防に協力思考中)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動状況を報告、意見、提案を頂きサービス向上に活かしている。	グループホーム単独の運営推進会議開催となっている。全委員が男性である。防災や交通安全の取り組みについて検討中である。	構成員の方々は、地域の中で様々な繋がり、力をもつ関係者の方々なので職種が異なる各方面(男女問わず)からの意見、助言や、アドバイザー的に参加して頂くなど、活発な会議となるよう更に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護認定調査等を家族の依頼を受けて、支所に向いて行っている。その時に、色々な情報運営への助言指導を受けている。	主管課担当者が運営推進委員となっており、事業所の実情やケアサービスの取り組みなど情報の共有が出来ている。また、利用者の介護度が上がった場合は、老人福祉施設等への紹介をしているので情報を頂くなどしている。介護認定の変更、更新等はケアマネジャーが代行し、家族に報告している。家族から利用料等の金銭面の相談については、担当者や包括支援センターに相談している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ADLが低下し、センサー使用しなければならない方には、家族の了解の元使用し、様子を日々職員間で話合っている。	併設の「デイサービスセンターもたい」との共同で「サービス向上委員会」が設置され、2ヶ月に1回開催している。食中毒予防や身体拘束をしない研修など、内部研修を実施している。県からも身体拘束に関するアンケートがきており、その結果も通知されている。現場で使えるマニュアルを検討中である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加し、虐待となる行為を話し合い、防止に取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内外の研修等で営んでいるが、実際に活用した例がなく、職員全体が理解、把握していると言えない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学、申し込みの時点で、大まかな説明をし、契約時に詳しく説明、疑問、不安に対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	不安解消等があれば、職員全体で共に共有し、家族に安心感を与え、寄り添える様に取り組んでいる。	家族からは、面会時に意見・要望をお聞きしている。支援に対する要望が多い。利用者家族が運営推進会議委員となっているが、意見・要望がなく支援に対する感謝の言葉が多い。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務会議で話し合われた事を職員に周知し、職員会議で意見、提案等の聞き取りを行っている。	毎月開催している職員会議では、利用者の支援についての話し合いが多いが、勤務状況や補修などの改善要望なども提案される。業務会議(同法人の管理者会議)で話し合われたことを職員に周知し、職員会議での意見・要望も反映される流れが出来ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	出来るだけ公休の希望を叶え、お互いが思いやりを持ち、仕事に繁栄して行ける様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修、情報の共有に努め、日常業務に活かせるよう推し進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ブロック定例会(グループホーム協会)に参加し、交流を得、交換研修を行い質の向上に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、家族様に入所前に来苑して頂き、ホーム内を知って頂き、少しでも不安な思いを持たず安心して生活出来る様に対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	問い合わせから、入所に至る迄、面談、電話にて要望を伺い、適切なサービスに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族様に担当者、又はケアマネと連絡を取り、ニーズの把握サービス提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人、家族様より在宅時の生活状況を聞き、生活を継続して行ける様に支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通院介助、家族参加、料金の支払い等で共に過ごす時間を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人、家族等から思い出の場所、店等を聞き、ドライブ中に近くを通ったり、立ち寄ったりを行い対応している。	一人ひとりの情報が把握されており、それに伴い、本人とのコミュニケーションを図りながら、支援に努めている。家族の面会時には、利用者の好きな本を持って来て頂いたり、好きなお菓子の差し入れがある。馴染みの美容院やお盆の時期には、お墓参りや買い物など、継続的な交流ができるよう働きかけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立感、疎外感を持つ事のない様に配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入所時に、長期入院等で退居が生じた場合、相談、提案をし、不安等の対応に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言動、行動等から、今迄知らなかった事を知る事が出来、その思いを引き延ばせる様に実践へ繋げている。	家族の面会時には、本人の好きなお花の本、お菓子など頂いている。職員とお花の絵本でコミュニケーションが図られている。男性職員がウッドデッキの修理をしてと自らペンキ塗り(男性利用者)や草取りを手伝って頂いた。コミュニケーションをとることにより興味や、能力を知る事が出来た。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の情報、本人からの会話で情報を集め、それを生かせる様にそった支援をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員の都合を優先するのではなく、本人と職員がゆっくり話をしたり散歩したりして楽しむ様に支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議等で話し合いに基づき、臨機応変な対応、見直しを行い、現状にあった計画をしている。	介護職員は、担当制で利用者を支援している。申し送りノートで日常生活の気づきを確認(合議)し、ケースごとに記録している。家族からは面会時に意見・要望を聞き、医療面は看護師からの情報に基づき、ケアマネジャーが計画を策定後に管理者が確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、ケース記録、申し送りノートをを用い必ず確認し(合議に印鑑を押してもらう)、実践に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	1人ひとりの思い、希望(例としてホームでの買い物等に外出希望の方と一緒に連れて行く)を取り入れ本人視点に立って話し合っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの訪問、地区のお祭り等に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	殆どの方が馴染みのかかりつけ医を受診しており、緊急時はホームで対応している。	ほとんどの方が利用する前からの主治医を受診している。受診は家族付き添いが原則である。家族付き添いが困難な場合は、医療機関まで利用者をお送りし、落ち合うケースも最近増えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の常勤がいるので、状態により早期対応が出来ている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報交換、病院に面会へ行ったり等をし、早期退院に向けて支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にグループホームとして出来る所の支援は家族に伝えている。(重度化した場合は、困難で他の施設への紹介も行っている)	看取り介護は困難であることを、契約時に説明している。同一法人の特別養護老人ホームが設置されているので、重度化した場合は、家族に早めの対応を協議している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急発生時は見える場所にどの様に対応して良いかを貼っている。緊急マニュアルも目につく所に備えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	デイサービスと合同で年2回避難訓練を施行している。 近隣住民の協力体制の整備と役割は、出来ていなかった。	併設のデイサービスと合同で年2回避難訓練を実施している。夜間想定(夕方方や薄暗い時間帯)の避難訓練を実施している。地域住民の防災協力体制はまだできていない。非常招集連絡網は整備し、事務室に掲示している。	地区民の協力体制を組織し役割を明確にし、避難訓練を実施することを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	他の利用者様の前で、排尿の声がけ誘導に配慮し対応している。 本人のプライバシーに関する事を他に話さない様に、徹底している。	トイレ誘導の声掛けは、他の利用者には気づかれないよう配慮し対応している。日常生活支援の中で職員同士で注意しあったり、管理者からの注意や指導もある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定出来る方には、支援しているが、表現出来ない場合はこちらから選択したり、表情や行動をくみとる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	例えば、起床の声がけ時、本人がまだ離床したくない場合は再度時間を見て声がけし、本人のペースにそって見守りながら、一緒に生活している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	床屋さんが来て散髪。朝のヒゲ剃り等も手伝っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理には至らないが、下膳時には各利用者様が台所迄持ってくる。車椅子等の利用者様には、動ける人が変わりに運んでくれている。	献立は職員が交代で作成し、調理も職員のみで作っている。2年前までは利用者と一緒に作っていたが、現在は難しい状態になっている。しかしテーブルの上では皮むき、すじとり、干し柿作りなど出来る事は手伝っている。嫌いなものが出された時は職員はアレンジして提供している。外食の際は、事前に決めて予約をし出かけている。イベント食等は、利用者から要望を聞いて支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の水分量、摂取量、体重などの把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声がけし実施。磨き残しが無いか確認。週1回歯ブラシ、コップの除菌消毒施行。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて、トイレ誘導、尿意が解る方は見守りし、パットのズレ等の確認をしている。	排泄チェック表によりトイレ誘導している。自立に向けた訓練を試み中の方、失禁の状況把握のためにパット使用の方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給、運動にも声がけしているが、便秘症の方には処方の下、薬投与で対処している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午前に入浴施行。週3回。入浴時のコミュニケーションはととても大切にしている。	入浴介助時のコミュニケーションは、利用者の生活歴が見えてくるのでとても大切な場となっている。異性による介助拒否者いない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床の声がけは、程同じ時間帯にしますが、後は本人の離床にまかせています。就寝時間がそれぞれ違う為、入眠に至るまで、好きな様に過ごしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情は目につく所に置いており、薬袋に薬名、個数を記入し、誤薬が生じないようにしている。変更時は申し送り周知(記入もする)している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	読書、散歩等、好きな事、今迄していた事を継続出来る様に支援。又こちらからテーブル拭き、掃除等をお願いする事もある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節毎にドライブをたて外食を試みている。ホームでの食材買い出し時には、利用者様と共に一緒に出かけ買物をする。	食材の買い出しに産直へ出かけたり、通院の帰りに家族と外食したりしている。近くに国道があり、大型車が頻繁に通る危険があるので、敷地内を散歩してもらっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族からお預かりしたお小遣いを事務所で管理し、消耗品等にあてている。買物等に行っても、自ら「買いたい」と訴える人は、今の所存在しない。お小遣い残金は月1回の家族様の手紙に残金等を記入しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から電話の希望があれば、いつでも対応している。 手紙のやり取りは今の段階では見られない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム全体に光が差し込むので、各自和室で横になったり、ソファでくつろいだりしている。	食道・居間の壁には、利用者の顔写真付きの干支や装飾した絵が大きく飾られている。切り絵が得意な職員の作品も飾られている。ソファが2ヶ所あり、自由にくつろげる空間となっている。廊下には行事のスナップ写真が飾られ、面会に来た家族の癒しになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	好きな所で過ごして頂く様に和室、廊下等に数ヶ所の椅子を置き、自由に座ったり、会話したりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時は新しい物ではなく、馴染みの物を活用して頂き、今まで通りの生活、部屋にしている。	ベッド、クローゼット、押入れ、寝具一式、エアコン、床暖が設備されている。ラジオの受信状況に合わせてベッドの向きを変えている方もいる。利用開始時から着なれた服装で生活していただいている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール内を常に運動している方がいるので、不必要な物は置かず、自由に歩行し危険をふせいでいる。		